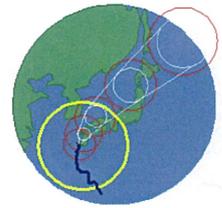




静岡商同窓会 中部支部だより



24年9月1日
第10号

中部支部を盛り上げよう！

支部長（32年卒） 坂本周造

平成14年8月に開催した「第一回中部支部総会」から10年が経過しました。つくづく時の過ぎるのは早いものだと感心しています。

ここまで来られたのもひとえに会員の皆さんのお陰だと思っています。

さらに、中部支部を盛り上げてゆくために、この「中部支部だより」を大いに活用したいと思います。この10号では、会員の日頃の活動とか会員が知らなかった静岡のエピソードなどを載せました。皆さんも「中部支部だより」に是非参加していただければありがたいです。ところで、会員の皆さんの会費納入状況も100%を達成しており、いかに会員の皆さんが中部支部を盛り上げようとしているかがわかります。

今年は久しぶりに甲子園の応援が出来るのかと思い、「中部支部」でも応援体制を準備しましたが残念ながら決勝戦で敗退したので出来ませんでした。

しかし、こういう機会が実現すれば「中部支部」も大いに盛り上がるので、他のスポーツ・文化面で静岡が活躍するような機会を期待しています。

会員の皆さんの知恵で「中部支部」を盛り上げたいと思います。

評伝 海野光弘「風と光への旅立ち」(岩崎芳生著)

32年卒 坂本周造

評伝 海野光弘
「風と光への旅立ち」
岩崎芳生著の表紙



先日、静岡の同期である友人が本を出したので静岡に行ってきた。

友人は小説家の岩崎芳生で、彼が書いた海野光弘の評伝「風と光への旅立ち」(みずのわ出版)の出版披露会である。木版画家の海野光弘と小説家の岩崎芳生は一年違いであり、先輩(岩崎)後輩(海野)の仲である。惜しくも海野は39歳で亡くなっているが、その作品は近年ますます評価されている。その木版画家の生涯を岩崎が評伝にして今回上梓されたわけだ。自分が知っているのは、確か岩崎は「映画部」で活躍していて海野のいる新聞部に頻繁に出入りしていたようだ。その頃から知っている後輩の評伝を書いたのだから内容はかなりリアルだ。

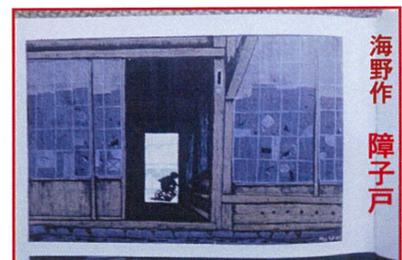
海野が木版画で頭角を現し始めたころ、

岩崎は一生懸命に小説を書いていたようだ。岩崎は後に小川国夫や藤枝静男らと同じ静岡県文化奨励賞を受賞している。この本を読んで思ったのは、岩崎は版画家の海野を実に鋭く見抜いていたことだ。単なる先輩と後輩の関係を越えて海野を温かく見守っている様子がかがえる。

50数年前の静岡商業高校にこのような話があったことを紹介したかった。



海野作 縁通し



海野作 障子戸